



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

トルコ：反政府デモの発生 (3)

(6月14日～16日報道取り纏め)

6月13日(木)23時30分よりエルドアン首相とデモ隊の代表者らとの2回目の会談がアンカラで行われた。1回目の会談に参加できなかった「タクシム連帯プラットフォーム」(70以上の団体が連携して設立した組織)のメンバーも交えたこの会談は、約4時間にわたり行われた。会談終了後に記者会見を行ったヒュセイン・チェリキ公正発展党(AKP)副党首兼政府報道官は、エルドアン首相は裁判所の判決および再開発を問う住民投票の結果が出ない限り、ゲズイ公園の再開発執行は行わないと明言した。ただし、現在公園内でテント生活を送る人々に対しては直ちに退去するよう要請した。

同会談には、政府側から、ムアッメル・ギュレル内務大臣、オメル・チェリキ文化観光大臣、エルドアン・バイラクタル環境都市整備大臣、ヒュセイン・チェリキ AKP 副党首兼報道官、アフカン・アラ首相府事務次官らが参加した。

デモの代表者からは、Sunay Akın (作家)、Yavuz Bingöl (ミュージシャン)、Ceyda Düvenci (俳優)、Halit Ergenç (俳優)、Sertab Erener (ミュージシャン)、Mahsun Kırmızıgül (ミュージシャン)、Nebil Özgentürk (ジャーナリスト)、Ali Sunal (俳優) の他、「タクシム連帯プラットフォーム」の代表8名 (Eyüp Muhcu (トルコ技術者建築家会議所連合 (TMMOB) 会長)、Tayfun Kahraman (TMMOB イスタンブール委員長)、Canan Çalağan (公務員組合連盟 (KESK) 女性書記長)、Arzu Çerkezoğlu (トルコ革新労働組合連盟 (DISK) 書記長)、Dr. Ali Çerkezoğlu (イスタンブール医師会書記長)、Beyza Metin (電気技師会イスタンブール支部長)、Derya Karadağ (建築家会議所メンバー)、Can Tüzün (地区の諸協会代表)) が参加した。

首相との会談を終えた「タクシム連帯プラットフォーム」の代表者らは会見し、概ね歓迎する意向を示したが、詳細は持ち帰って協議すると述べた。

政府側も譲歩する構えを見せ、収束に向かうかに思えたが、エルドアン首相は15日、公園内でテント生活を送る人々に対し「我慢の限界を超えた」とし、催涙ガスや放水車を使用して強制排除に乗り出した。これに激しく反発したデモ隊と衝突が起こり、多数のけが人が出るなど、再度混乱を招いている。6月16日には今回のデモが始まってから初めて、エルドアン首相を支持する AKP の大規模集会在イスタンブールで開催され、エルドアン首相は約2時間にわたり演説を行った。この中でも首相は自身の正当性を強調し強気な発言を繰り返した。

一旦は解決の糸口をつかみかけたように見えたが、今回の強硬措置が更に両者の溝を広げてしまったかにも思える。10年にわたって首相の座に就いてきたエルドアン氏だが、熱狂的な支持を持って迎えられた庶民の味方が、権力に固執する独裁者のようにならないことを望みたい。

(金子研究員)